

科目名	成人看護Ⅴ (運動・神経・筋機能障害の看護)					DP3 DP4		看護高等課程	
学年	1 年	分野	専門 成人看護	時間数	23 時間	担当 教員	内田 剛(8.5)、渡辺 大(8.5) 久保 温子(6)		
科目 概要	看護職者として必要な運動・神経・筋機能に障害のある患者の看護について学ぶ。								
到達 目標	1. 主な運動器・新駅・筋の疾患の看護の目的、特徴を知り、治療に伴う看護を理解する。 2. リハビリテーション特徴を知り、リハビリテーションに伴う看護を理解する。								
回数	単元項目			授業内容			形態	担当教員	
1～4	運動機能障害の看護			看護の目的、患者の特徴(身体的・心理的・社会的問題) 看護の役割、家族への援助、経過別看護			講義	内田	
				主な症状と看護(疼痛、神経障害、循環障害、 フォルクマン拘縮、出血、深部静脈血栓症、褥瘡)					
				検査・治療・処置に伴う看護 (保存療法、手術療法)					
				主な疾患患者の看護 (骨折、椎間板ヘルニア、脊髄損傷、変形性膝関節 症、関節リウマチ)					
5～8	神経機能障害の看護			看護の目的、患者の特徴(身体的・心理的・社会的問題) 看護の役割、家族への援助、経過別看護			講義	渡辺	
				主な症状と看護(頭痛、意識障害、運動麻痺、運動失 調、嚥下障害、感覚障害、排尿障害、言語障害、失 認、失行、痙攣、認知機能障害、頭蓋内圧亢進症状)					
				検査・治療・処置に伴う看護 (腰椎穿刺、脳波検査、CT/MRI、脳血管造影)					
				主な疾患患者の看護 (認知症、脳梗塞・脳出血、急性硬膜下血腫、 脳腫瘍、髄膜炎、多発性硬化症、パーキンソン病、 筋委縮性側索硬化症)					
9～11	リハビリテーションの目的 と特徴			リハビリテーション医療の対象、リハビリテーション 医療関連の職種とその役割、リハビリテーション看護			講義	久保	
	生活機能と障害へのアプロ ーチ			国際生活機能分類による障害の考え方、リハビリテー ションの時期とアプローチ、					
	リハビリテーションの実際			理学療法(関節可動域訓練、筋力増強訓練、巧緻性・ 協調性訓練)					
12	試験(1 時間)						試験		
評価 基準	内田(35 点)、渡辺(35 点)・久保(30 点)の計 100 点満点とし、6 割以上を合格とする。また、授業時間数の 3 分の 2 以上の出席が必要となる。								
評価 方法	出席状況と講義への参加態度、課題レポート、筆記試験などで総合的に評価する。								
教科書	看護学入門 7 基礎看護Ⅲ 看護学入門 9 成人看護Ⅱ 看護学入門 10 成人看護Ⅲ								
履修上の 注意点									